

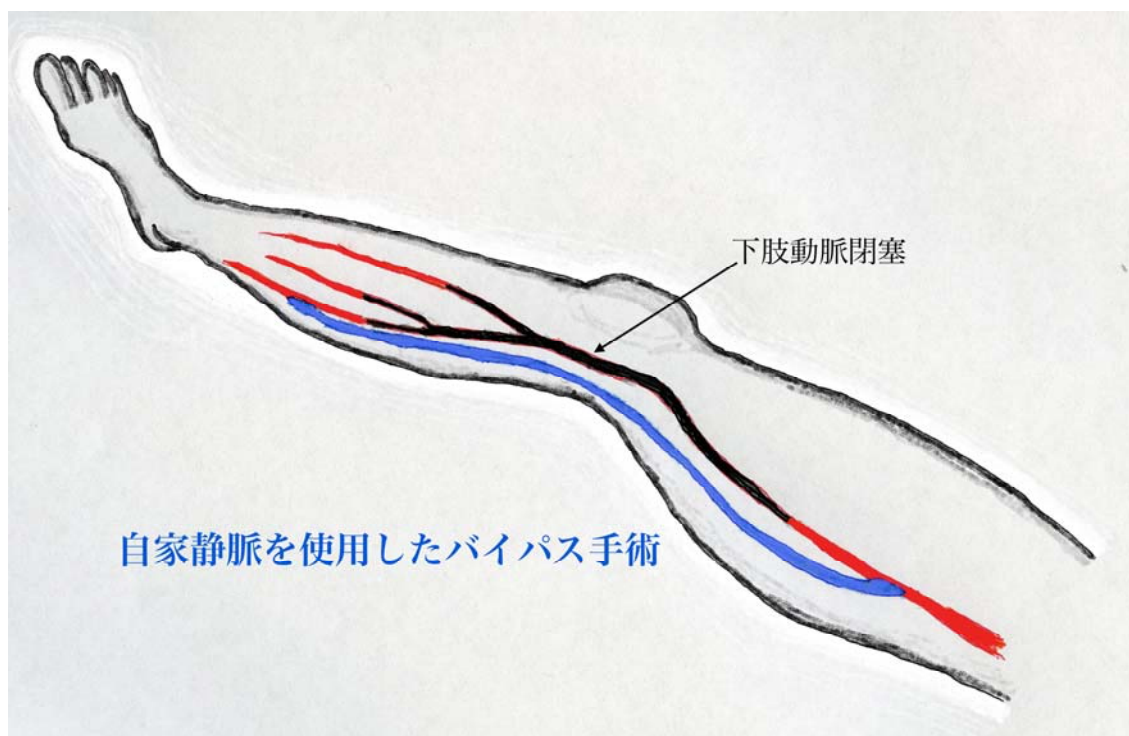
下肢閉塞性動脈硬化症に対する血行再建治療につきまして

月曜日午前に専門外来をスタートいたします。
詳しくは患者支援センターまでお問い合わせ下さい。

末梢血管外科では閉塞性動脈硬化症の治療を行います。
閉塞性動脈硬化症とは、主に下肢の動脈が高度の狭窄または閉塞を起こすことにより血流が低下して、歩行時の痛み、安静時の痛み、足趾の潰瘍などをおこす病気です。重症の場合は下肢切断を迫られます。ほとんどの場合が糖尿病、高血圧、脂質異常症が基礎疾患となっています。

治療方法

1. 大腿から膝までの動脈閉塞
 - I. 主に人工血管を使用したバイパス手術を行います。
 - II. 血管内治療（循環器内科が担当します）
ステントを留置することで狭窄を解除することができる場合があります。
2. 下腿以下の動脈病変
下腿や足首の血管には自分の静脈を用いてバイパス手術を行います。



足の痛みは血流を増やす事でかなり軽減されます。潰瘍については、放置すれば下腿あるいは大腿以下の切断が必要である場合も、バイパス手術が成功すれば切断範囲を最小限にできる可能性が出てきます。手術が可能かどうかを判断するためには、血管造影検査や CT 検査などが必要です。治療に際しては、血管外科以外に循環器内科、麻酔科、形成外科、皮膚科、整形外科などが協力して治療にあたります。